



赤心(せきしん)

～ 豊かな感性 確かな知性 あふれる意欲 ～

2023.9.22

令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果

4月に3年生対象として「全国学力・学習状況調査」が実施されました。今年度は、「国語」「数学」「英語」「生徒質問紙」が行われました。先日、その結果が公表されました。本校の様子を分析しましたので、お知らせします。

国語

本校は、全国平均正答率よりやや低い結果となっています。

【良かったところ】

・「話すこと・聞くこと」の分野については、全国平均を上回りました。こうした結果が得られたのは、目的や場面に応じて伝え方を工夫する活動に多く取り組んだり、話題を捉えて話し合う経験を重ねたりしてきたためだと考えられます。円滑な人間関係を築いていくために必要な「話す力」や「聞く力」が身に付いていると言えます。

【課題と改善点】

・「書くこと」と「読むこと」の分野については、全国平均を下回る結果となりました。要旨を捉える問題に課題が見られたため、文章の構成や接続語に着目した指導に一層力を入れることで、中心となる部分を捉える力を伸ばしていきます。また、生徒が自分の考えを広げたり深めたりすることができるように、文章を読んで理解した事柄を知識や経験と結び付ける必要のある活動も取り入れていきたいと思えます。

数学

本校は、全国平均正答率よりやや低い結果となっています。

【良かったところ】

・「データの活用」の度数分布表や箱ひげ図に関する問題について全国平均よりも良い数値でした。これは、身近な事柄についてデータを収集し、生徒一人一人が知識や技能の習得のために自分の考えを表や図を用いて表現する活動を取り入れたことが要因であると考えられます。

【課題と改善点】

・「自然数の概念の理解」、「空間図形の見方」、「三角形の合同証明」の3分野が全国平均よりも特に低い分野でした。数学用語の理解のためにはインプットだけでなくアウトプットも効果的であるので、説明や発表の場で数学用語を正しく用いて根拠を明らかにしながら順序良く結論まで説明したり、デジタル教科書や電子黒板を用いて図形の様子を視覚的に捉えさせたりすることが改善の糸口であると考えられます。

(裏面に続きます)

英語

本校は、全国平均正答率よりやや低い結果となっています。

【良かったところ】

・「聞くこと」の分野では、全国平均よりもやや高い結果となりました。伊勢崎市では、小学校1年生から英語の学習を積み重ねていることや、普段の授業から英語の歌にふれ、ALTの先生とのやりとりを行っている結果だと考えられます。その中でも特に、「情報を正確に聞き取る」「要点を捉える」問題について、全国平均を上回っています。これは、リスニング問題にくり返し取り組み、たくさん入ってくる英語の中から、特に必要な情報を選択する力がついていると考えられます。

【課題と改善点】

・「読むこと」の分野において、「概要や要点を捉える」問題については、全国平均と離れた数値ではありませんでしたが、「情報を正確に読み取る」問題について、数値が特に低い結果となりました。英文を読んで大まかな概要を把握するだけでなく、その内容を自分の言葉や文章でまとめたり、表やグラフで表されたものと照らし合わせたりする力をつけていけるよう、教科書の内容理解等に継続して取り組んでいきたいと思えます。

・「書くこと」「話すこと」の分野では、特に自分の考えをまとまりのある英文で書く、会話を完成させるといった問題で低い結果となりました。自己表現の問題に課題が見られたため、決められた英文を繰り返す学習だけでなく、日頃の授業から場面設定を意識し、学習した英文を用いて自分の考えを英文で表す活動に、より力を入れていきたいと思えます。

生徒質問紙

【大人とのかかわりに関して】

○「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思えますか」の項目では当てはまる・やや当てはまると回答した生徒の割合が全国に比べて高くなっています。

△「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の項目では当てはまる・やや当てはまると回答した生徒の割合が全国に比べて低くなっています。

・以上より、子どもたちは先生に認められていると感じているものの、本音の部分では先生に遠慮している様子が見えてきました。お互いの良さを認め合い、一人一人が自己肯定感や自己有用感を得るためには、自分たちだけでは解決できないこともあると思えます。そんな時は大人を頼るよう子どもたちに伝えていきたいと思えます。保護者の皆様も、お子さんに心配事がありましたらご相談ください。安全・安心な学校づくりのために、ご家庭の協力をよろしく願います。

【地域とのかかわりに関して】

○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思えますか」の項目では全国に比べて高い数値が出ています。今年は地域のお祭りなどの行事が関係者の工夫のもとに再開となったことで、心待ちにしていたたくさん子どもたちが積極的に地域の活動に参加している様子が見られました。地域の行事に参加して年代の異なる人々とふれ合うことは、自分と社会とのつながりを感じるとともに、伝統文化について学ぶ良い機会であると思えます。

【学習に関して】

△「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の項目が全国に比べて低くなっています。学習時間も全国に比べて低く、平日2時間以上勉強する割合は全国で3人に1人の割合に対し、本校は4人に1人でした。さらに、平日の勉強時間が5人に1人は30分未満であり、休日の勉強時間は2人に1人が1時間未満でした。

△「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」「授業で学んだことを、他の学習で生かしていますか」「学級活動における話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」の項目が全国に比べて低くなっています。

・以上から、家庭での学習時間の確保が喫緊の課題であると考えられます。成績の向上には地道な努力を要することになります。漠然と大きな目標を設定するだけでなく、その目標をゴールに見据えて階段を上るようにスモールステップで小さな目標を設定し、小さな達成感を繰り返し味わうことで自信につながると思えます。また、授業の受け方も受け身になってしまっているようです。与えられた課題に対して答えを待つのではなく、自分なりに意見をもって授業に臨むことで、自己理解や他者理解につながり、プレゼンテーションの能力が向上し、自己と他者と比べることで、課題解決の効率化を図ることができるようになります。インプットだけでなくアウトプットにも力を入れていけるよう学校でも指導していきたいと思えます。

子どもたちのより良い将来のために、家庭と学校の両面から挑戦する生徒の背中を押し、支えていけたらと考えています。今後も引き続きご協力をよろしく願います。